

2008年度第一四半期決算説明会 主なQ&A

Q1: 今回の08年度通期見直し修正については、想定原油価格を変更したことに起因するスライドタイムラグの影響が主な要因ということでしょうか？

A1: 今回の修正見直しについては、前提原油価格見直しによる売上高と原料費の見直しを変更したことによるもので、他には大きな変更要素はありません。尚、今回の見直しでは、通期原油価格を当初計画の95ドル/バレルから、7月以降については135ドル/バレルに修正し、これによるスライドタイムラグの影響額を▲398億円から▲1,301億円に修正しております。

Q2: スライドタイムラグ影響等、一時的な要因を除けば東京ガスの収益構造に大きな変化はないか？

A2: スライドタイムラグ影響以外での主な減益要因としては、退職手当の数理計算上の差異費用があげられますが、既に当初計画に織り込み済みであり、当社の収益構造に新たに影響を及ぼすものではありません。

ガス販売量につきましても、ほぼ当初計画通りで、本通期見通しの数量は第1四半期の販売実績と工業用お客様の稼働増量分を当初計画に反映した数量となっており、堅調な伸びを引き続き見込んでおります。

Q3: これまで東京ガスは業績悪化局面においては、固定費等の削減努力を行ってきたが、今回の収支見通しが厳しいのを受けて、現時点で考えている具体的な施策はあるか？

A3: 今回の赤字見直しは、前提とした想定原油価格に基づいたスライドタイムラグによるもので、原油価格の急騰が落ち着けば利益は回復すると認識しております。しかしながら、赤字見直しであることは重く受け止めおり、当初計画に既に織り込んでいるコスト削減策を着実に実施するとともに、今後の原油価格動向を注視し必要に応じて新たな対策を検討する所存です。

Q4: 赤字収支予想のなかで、2008年度の株主還元の考え方および減配の可能性は？

A4: 本年の赤字収支見直しについては、スライドタイムラグにより一過性の現象と考えておりますので、当社としては、従来からの総分配性向 6 割と減配は行わないという考え方は継続していく予定です。

以上